

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

学校教育目標  
『自分とみんな いいな いいな 稲荷台』  
【知】自分の考えをもち、自分の言葉で表現ができる子  
【徳】互いのよさを認め合い、思いやりをもって、正しい行動ができる子  
【体】健康な生活習慣を身に付け、すすんで運動に取り組む子  
【公】地域とかかわり、地域を大切にす子  
【関】豊かな創造力をもって、チャレンジし続ける子

教育課程全体で  
育成を目指す資質・能力

<言語能力>  
<自分づくりに関する力>

具体化した資質・能力

<言語能力>  
低学年: 感じたことを言葉にする力 中学年: 伝える内容を明確にする力  
高学年: 伝え合うことで自分の考えを深化する力  
<自分づくりに関する力>  
低学年: 好奇心 中学年: 自分らしさを発揮しようとする姿勢  
高学年: 課題に対応する力

中期取組目標

○子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、系統性を重視した言語能力を育みます。  
・1年目は語彙を豊かにし、感じたことを言葉にして表現できる子を育てます。  
・2年目は子どもの表現を大切にしながら伝え合う力を育てます。  
・3年目は伝え合うことで自分の考えを深め、双方向に学び合う子どもを育てます。  
○生活習慣を自ら整え、他者を理解する態度と自己を肯定する姿勢をもつ子どもを育てます。  
○日々の観察とデータの効果的な活用で子どもの変化を捉え、学校生活の充実を図ります。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
学習指導	①見通しや振り返りを通して自らの学習調整ができる主体性の育成 ②ICTを活用した学習支援及び家庭学習による学習習慣の定着③校内重点研による教師の授業力向上
担当	学力・評価研究部

**学力向上に関わる本校の状況**

(1)学力の概要分析  
昨年度から比較して、学力の伸びが見られる学年が見られた。全体的に、学力が平均に近づいてきている。特に、学習意識が高まりが見られ、平均を上回っている学年が見られる。学力の伸びとともに、学習意識の高まりが見られ、学力の伸びが自信と結びついていると考えられる。  
一昨年度から重点的に取り組んでいる研究として具体的に取り上げている国語・社会に関して、平均を上回っている学年が多く、学力向上につながっていると考えられる。

(2)教科学習の状況  
国語は、概ね平均に近づいている。文学的な文章や、情報活用能力など学年によって課題となる項目は異なるが、全体的に国語科の学習意識が高まっている。  
社会は、調べた事実をもとに問題を解決しようとする意識が高まりが見られ、主体的な学習につながっていると考えられる。

**今年度の目標**

学習意欲のさらなる向上、および言語能力・自分づくりに関する力の向上

**目標を実現するための具体的行動プラン**

上半期  
①家庭学習の推進。学年の実態に応じて、子どもが自分の力に応じた学習プリントを選んだり、興味・関心、疑問のあることを調べて自学ノートに書いたり、相手・目的意識をもって取り組めるような音読の工夫などを行ったりすることで、主体性を育み、問題発見・解決力の育成につながるようにする。  
②タブレット端末を活用し、一人一人の学習状況に応じた課題に取り組むことができるようにする。また、ねらいに応じて書く活動を効果的に位置付けたり、週末の作文で書く活動の充実を図ったりする。

下半期  
③校内重点研の研究主題を「自ら学び合う子どもを育てる～だれもが考えやすい授業を目指して～」と設定し、UDをベースとして①言語活動の充実を図る手立ての在り方②子ども一人一人の実態に応じた的確な学習支援の2つを、考えやすい授業に向けた柱として設定し、子どもの育成を目指す。特に、児童の学習意欲の向上につながる、学習課題や学習問題を大切に、振り返りと運動させ、学びの自覚化を図る。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①学校生活目標を意識した活動 ②一人ひとりの児童を認め、よさの発見と自尊感情・自己肯定感を高める活動を行い、保護者と共有を図る ③パディ活動の充実
担当	人権・児童指導部

**豊かな心に関わる本校の状況**

(1)児童の実態  
「どうせできない」「私なんか」等の言葉が減り、各種アンケートからも自己肯定感が一定の水準で保たれている感がある。

(2)昨年度の取り組み  
学校教育目標である「自分とみんな いいな いいな 稲荷台」、学校生活目標「見つけ合おう・伝え合おう・認め合おう」をもとに、「よいところみつけ」等の自己肯定感を高める活動を継続した。また、その内容を保護者に隔月発信した。

(3)昨年度の成果と課題  
友達からの「いいところみつけ」をもとにした振り返りや「きょうのはなまる」などの自己肯定感を高める活動を継続したことにより、児童には自分と集団のよさに目を向ける心が育ちつつある。  
ただ、集団作りの面をもう少し意識的に行うことで、自他のよさにより気付き、学校にいる楽しさが増すように思う。

**今年度の目標**

個々の自己肯定感の向上 お互いを認め合える集団づくり

**目標を実現するための具体的行動プラン**

上半期  
①よいところ見つけ、ありがとう交換などの特別活動の充実  
学級で友達のよいところを見つけて伝え合ったり、ありがとうの気持ちを伝え合ったりするなど、特別活動を充実させる。  
②たてわり活動、パディ活動の充実  
・1・6年、2・4年、3・5年のパディ学年での活動や、たてわりでの活動を行い、いろいろな学年の児童との関わりの中で、人とかかわり方を学び、お互いを認め合える集団を作る。  
③自己肯定感を高める活動の発信  
・子どもたちの成長を見える化して発信することで、保護者や学校全体に肯定的な雰囲気を作る。  
④教師による意図的な価値づけ  
・教職員は意識して児童のよさを見つけて伝える。また、教師の発言が自己肯定感を下げないか振り返る。  
⑤温かな学級風土の醸成  
・横浜プログラムを活用して、児童が自分作り、仲間作り、集団作りができるように働きかける。年に2回、全校で重点期間を設ける。

下半期  
○上半期の活動を継続する。  
○集団づくりの取り組みの充実  
・縦割り活動のさらなる充実を図り、行事を通して学年間のつながりを深めるなど、集団を意識した活動を行う。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①運動への親しみ、健康管理の理解。「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化 ②あいさつ運動の充実「あいさつ、返事は心を込めて元気よく」 ③委員会や子どもの声を生かした中休みの充実
担当	体力・健康増進部

**健やかな体に関わる本校の状況**

(1)児童の実態  
・中休みに校庭に出て遊ぶ児童が多いが、学年によって、ばらつきがあり、教室で過ごす児童も一定数いる。  
・早寝 早起き 朝ごはん は、R7後期のアンケート結果では79%の児童が「できています」。「だいたいできています」と答えている。残りの約20%の児童の中には、朝ごはんを食べないのが状態化しているケースもある。  
・高学年になるにつれ、就寝時間が遅い児童が増えている。  
・ゲーム、スマホなどネット依存の潜在的な危険がある。  
・視力低下の低学年化。  
・給食について、グループ会食が定着した。引き続き給食のルール、会食のマナーを全校で確認しながらすすめている。  
・廊下を走る児童が多い。

(2)昨年度の成果と課題  
・後期に運動委員会の計画で、1輪車とフラフープを中休みに導入。ふだん外遊びをしない児童も、一輪車を目的に外に出るきっかけになった。同じ時期に、5年生の球技大会にむけて、サッカーとバスケの練習をした。校庭を効果的に利用することができた。  
・多くの児童が参加することができ、寒い時期に外で体を動かすことができた。・コロナ後、なじみのなかったグループ会食も日常化し、抵抗なく会食を楽しむ子どもの姿がみられた。配膳の時間が短くなり、食事をゆとりをもって楽しめるよう取り組む。  
・雨の日に校内で走る児童が多い。学校保健委員会で廊下を走らないための取り組みを取り入れる。

**今年度の目標**

・あいさつ、返事は心を込めて元気よく  
・楽しく体を動かそう

**目標を実現するための具体的行動プラン**

上半期  
○ ブロックごとの目標にむけて、授業以外でも、学校生活のいろいろな機会をとらえて、指導を行う  
○ あいさつができたときは、しっかりほめる。気持ちいいあいさつはコミュニケーションの基本であることを、実感として感じさせる。  
○ あいさつじゃんけん（先に挨拶をしたら勝ち）などでたのしく習慣化できるようにする。  
○ 定期的な(夏休み、秋、冬)健康生活チェックによる意識づけ。  
○ 体力テストはパディ学年で行い、他学年との関係づくりの機会を作る。  
○ 稲荷台体操 に継続して取り組む(子どもたちの喜ぶ音楽などで楽しくできる工夫をする)  
○ 食育タイムを利用して、ルール、マナー、エチケット、朝ごはんについても情報を提供する。  
○ 食育の外部講師を積極的に利用する。

下半期  
○ 上半期の活動の継続  
○ 学校保健委員会で、廊下を歩こうキャンペーンを実施  
○ 中休みの活動に一輪車 竹馬、フラフープ等を取り入れ、体幹の強化をはかる  
○ マラソン、縄跳びウィークを企画